２０１４年4月２５日発行

地域と協同の 116号 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

地域（団地）に住むことの大切さ

水野 隼人　氏　（地域と協同の研究センター顧問）

第１０回東海フォーラムでの小木曽先生のお話しに大きく「うなづく」指摘がいくつもありました。

私も、団塊世代の人間として「生活する」と「地域で住む」ことの違いを身にしみて感じる一人です。

私の住む各務原市は、名古屋市の通勤圏として１９７０年代に多くの団地が造成され、今市内５６千世帯の約３割の世帯が団地に住んでいます。

私が団地に住んで３０年がたちました。個人情報保護のため定かではありませんが、私の団地でも６５歳以上の一人、二人家族が２割（３割？）を超えています。

昨年ある団地で孤独死が発見されたという、衝撃的な事例があったこともあり、見守りが必要な人に対してどのような対応がされているか調べてみました。すると、見守りが必要な高齢者にたいして「日常活動支援システム」として組織されたボランティアグループ「近隣ケア」が活動していることがわかりました。

各務原市においては、町内に高齢者を対象とする「いきいきサロン」をつくり、一定の補助をつけています。但し、日常的には民生委員と自治会長が対応する「シクミ」ができていますが、実際には相互の人間関係（つながり）が大切なようです。

３０年住んでいる団地（地域）で初めて知る事柄でした。

若いころは、子どもをとおして「地域に住んで」いました。子どもの手が離れたころから職場にかかりきりになり、会社人間として「生活する」ことが第一義になりました。そしてその延長で今日まできていたんですね。

この様に考えてみると、この３０年間「生活する」ことに一生懸命努力してきたことに満足すると同時に、改めて「地域に住む＝向こう３軒両隣」という言葉と行動をもっと大切にしていくことが必要だと感じる今日この頃です。

CONTENTS

巻頭エッセイ　地域(団地)に住むことの大切さ　1
会員の交流の広場
「第10回東海交流フォーラム に参加して 」　2
とうかい食農健サポートクラブ　交流・学習会
大学生の食の“いま”の報告　3
研究センターならではの「学び合い」の場　報告　4
情報クリップ　5－7
企画案内・書籍案内　8

研究センター　4月の活動

2日(水)　食と農パネル世話人会
4日(金)　常任理事会
7日(月)　協同の未来塾企画委員会
8日(火)　岐阜のつどい　冊子編集委員会
10日(木)　三河地域懇談会　実行委員会
11日(金)　環境パネル　碧南火力発電所見学
17日(木)　F職員の仕事を考える世話人会
18日(金)　理事ゼミ世話人会
20日(日)　生協の未来のあり方研究会「研究集会」
25日(金)　協同の未来塾　第2回
26日(土)　理事会　30日(水)マイスター企画委員会

「第１０回東海交流フォーラムに参加して」

新しく会員になられ、２月８日の第１０回東海交流フォーラムに　初めて参加されたお二人に、意見やご感想を寄稿していただきました。

可児 紀夫 氏

（東海自治体問題研究所　事務局長）

第１０回東海フォーラムは、「地域で人をつなぎ未来をつくる！」をテーマに、小木曽先生から「地域における協同の役割と課題」という問題提起がありました。私は、このフォーラムに初めて実行委員として参加して、地域における協同の意義がますます重要であることを感じ、今後の研究所や地域活動に生かしていきたいと思いました。特に、移動店舗を自治会と取り組んだこと、地域で総合的に地域の課題に取り組んでいる伊賀エリア会の取り組みは、地域との協同を進めるにあたり重要な取り組みと感じました。

私は、１９７０年から全運輸省労働組合で、国民のための運輸行政を確立する行政研究活動に参加し、その最初の研究発表で「トラック運送事業者の協同組合を進めるために」という提言をしました。以後、貨物課長時代に９９％の零細トラック事業者が健全な取引ができるために協同組合を進める方針を立てました。３年前に退職しましたが、いま、トラック事業者の協同組合と適正な取引ができるよう政策提言をするためのアンケート調査をしています。また、地域では、民生委員活動の経験を生かして、地域医療生協を中心とした地域研究所、消費生協、農協、信用金庫、社協などの協同の力で安心できる地域づくりを進めることをめざしています。また、研究所では、地域で輻輳している課題に対応するために地域と協同の研究センターをはじめ各研究所とネットワークをすすめています。

このフォーラムが今後、生活物資や緊急輸送を担う運送事業者の協同組合などとの協同をはかり、地域防災対策などの課題に地域一体で取り組めるような方向を示せるテーマごとのフォーラムを検討したらどうでしょう。

いずれにしても、このフォーラムに参加して、あらためて、地域での人とのつながりの協同をテーマとしたフォーラムの開催がますます意義深くなると感じ、それをになう事務局に敬意を表します。

実践的住民自治調査で伺った長野県栄村にて
左端　可児 紀夫　氏

丹生 確（にうあきら）氏

（むすびグループ・ミエル株式会社代表取締役）

近年、少子高齢化の波が押し寄せ、医療に関わる費用の負担は増加、そして介護保険制度の見直しなどもあり、高齢者世代にとっては厳しさを増すばかりです。これまでの成長路線を前提にした社会保障制度では成り立たなくなり、これからは社会保険の共助と、住民同士の互助で、市民が総力で取り組む時代へとシフトするのだと思います。

私は現在、「お年寄りが元気に安心して暮らせる地域づくり」を進める、むすびグループに参画しています。私たちは、独り暮らしのお年寄りに異変があった時に、周囲が気づかずに放置されるのを防ぐため、自宅にセンサーを設けて安否を確認できる仕組みを提案し、地域の支え合い体制づくりを推進しています。この３月に岐阜県恵那市で、地域の皆さんとともに「地域に暮らす方がお互いを支え合い、自主・自立できる町づくり」のモデルを作りました。この取組みは、センサーを使った見守りが、独居のお年寄りだけでなく、離れて暮らしているご家族と地域を結びつけ、見守り協力金を払い自分の両親を地域で見守ってもらう収益事業となったことが、国や行政からの大きな評価に繋がりました。今後は、見守りだけでなく買物ができない方などのために、それぞれの地域にあった支え合い体制づくりに取り組んでいきます。

私は、今回のフォーラムを通じて皆さんの取組みに触れ、あらためて生協は、人と人が繋がり、支え合いながら活動されているのだと感じました。これこそが、これからの社会に不可欠な「互助の体現」に他なりません。その互助の礎となるのが、「人と人の絆」です。これは最も必要で、最も難しいテーマですが、これまで生協が取り組んできた活動の延長戦上に、地域が一体となった互助モデルの実現があるのだと思います。

地域づくりには、ひとつとして同じものはありません。生協と私たちが取組みを共にすることで、次世代が将来に夢を持てるような地域づくりを実現できれば幸いです。

とうかい食農健サポートクラブ学習・交流会　　（文責：事務局 ）

大学生の食の“いま”～第 48 回学生生活実態調査の結果から～の報告

２月２８日（金）名古屋女子大学に於いて、とうかい食農建サポートクラブ主催の学習交流会「大学生の食の“いま”」が、名古屋女子大学の学生さんが３６人、その他２２人の合計５８人の参加で開催されました。その主な内容を紹介させていただきます。学生生活実態調査は、正確には「学生の消費生活に関する実態調査」です。１９６３年にスタートし、ほぼ毎年取り組まれ、今回は一昨年の第４８回調査の結果から、調査に継続して取り組んでいる３０大学生協８６００人ほどのデータをベースに紹介いただきました。

大学生協連合会東海ブロック山本昌也さんからの報告

大学生協連東海ブロック　山本昌也さん

１．大学生をとりまく環境

下宿生で、仕送り「ゼロ」が１０人に１人いるということです。また、下宿生の仕送りの金額の分布で、家からの仕送りが０の人、５万円未満の人、５万円～１０万円までの人、１０万円以上で分けています。１９９５年では、６２．４%の方が１０万円以上の仕送りを受けていました。これが年とともに、どんどん右肩下がりに下がり、５万～１０万円の仕送りの人はほぼ横ばいか、少しずつ増えています。５万円未満の方と０円も含めて９５年に７．３%の人でしたが、２０１２年では２６．１%と、４人に１人以上が５万円未満でやりくりしている状況になっています。そして、仕送りをまったく受けていない学生さんが、９５年は２%で、５０人に１人でしたが、２０１０年で１０人に１人になっています。１０人に１人は自力で生活しているということです。

２．大学生の食事情

大学生の食事情について、まず朝ご飯を食べている率は、１９９０年の頃と比べると２０１２年までずっと、自宅生も下宿生も右肩上がりで増えています。昔、自宅生で７０%と下宿生で４３%が朝ご飯を食べているという結果でしたが、今は８０%と６０%に増えています。しかし、調べてみますと、小・中・高校生と比べますと低くなっています。小学生は９３～９４%、中学生は８６～８７%、高校生は８２～８３%が朝ご飯を食べています。それに比べると大学生はまだ低いわけです。大学生は生活が変わることで朝食を食べる時間が減ることがあると思われます。また、学年が上がるにつれ、自宅生でも、下宿生でも朝食を食べる率は下がります。

大学生の食意識は、２０１２年、東海地区の大学生協で独自に行ったアンケートあり、そこから見えてきた状況の紹介をします。食事は楽しむとかいただくとかいう感覚ではなく、すませるものという感覚でいる学生が少なからずいます。栄養を摂る、エネルギーを得るためだけにあって、楽しむよりは栄養バランスが摂取できればいいという感覚です。さらに栄養バランスも度外視で、空腹が満たされればいいという方も少なからずいます。お金がないから、食べない方もいます。

名古屋女子大学の学生さんからの報告

名古屋女子大学学生さん

食物栄養学科の食物について専門的に学んでいる食習慣の実態を明らかにすることを目的とし、３・４年生（２０才～２２才）の女子学生９６人に、記入式アンケートを実施しました。「朝食を欠食することがありますか？」という調査結果です。

毎日を食べる人は６４人で、週１～２回欠食する人は２５人、週３回以上欠食する人は４人、毎日欠食する人は３人でした。

専門知識を学んでいる学生でも、食生活が特別によいわけではないということがわかりました。また食事は、栄養バランスを考えることが大切ですが、特に間食や夕食を通してコミュニケーションをとることができ、それが日常生活にも大きく関わっているということを改めて感じました。

（文責：事務局 ）

研究センターならではの「学び合い」の場　報告

地域と協同の研究センター主催で開催してきました第５期「共同購入事業マイスターコース」が２月１６日（日）に、「組合員理事ゼミナール」が３月６日（木）にそれぞれ修了式を行いました。また３月２８日（金）には、２０１０年度より相談をすすめてきた「協同の未来塾」の第１回が開催されました。

１．「共同購入事業マイスターコース」修了式

２０１３年度、第５期「共同購入事業マイスターコース」を開講し、東海の３生協、委託業者から２４名の参加がありました。マイスターコースは、生協固有の業態「共同購入事業」に関わる専修の学びの場は、一般的には存在しないことから、その専門的な担い手を育むこと「プロの専門スタッフとしての地域担当＝マイスターを育む」ことを目的に開講し、第１単元から第７単元まで、各生協の共同購入事業の責任者、人事の担当が企画委員として中心になりこれまで開講してきました。２０１３年度第５期となる受講生の修了式２月１６日（日）では、一人ひとりにマイスターバッジと修了証が、代表理事より手渡されました。

参加者の感想から

「共同購入の仕事とはなにか、深いところまで考えたことはなかった。コープあいちの他の担当や他生協の担当との交流、さまざまな考え方がいい刺激となりました。私は、コミュニケーションということの重要性を再認識できたことが最大の収穫であった。」

「今回のコースを通して、一番に感じたのは生協の担当とは、可能性を無限大に秘めているということです。マニュアル化されておらず、組合員さんを主人公としてお一人お一人を見て、どう関わりを持てるかが大事だと改めて感じました。」

共同購入事業マイスターコース修了式

２．「組合員理事ゼミナール」修了式

組合員理事ゼミナール修了式

東海の３生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ）の新任組合員理事１６人を対象に、各生協の役職員・組合員理事が参加し世話人会をつくり、組合員理事ゼミナールを開講してきました。組合員理事ゼミナールは、組合員の願いに応える理事会での組合員理事の役割を果たすために、組合員理事の考え合い、学び合う場として、また東海地域の３生協の組合員理事さんが互いに交流し合い、考え合う場として開講してきました。２０１２年度に開講した組合員理事ゼミナールは２０１３年度まで９回の単元を終え、３月６日（木）に修了式を持ちました。

受講者のふりかえりから

「私はこのゼミナールで色々な経験をさせてもらいました。特に、いつも行なっていたグループワークは愛知、三重の理事の皆さんと語り合い、おしゃべりする事でいつも楽しく参加できました。話すことで同じ悩みがあるんだなぁと思い共感し、元気をもらったり勇気づけられたり、私にとってとても有意義なものでした。」

３．「協同の未来塾」開講

コープぎふ、コープあいち、コープみえ、東海コープ事業連合が参加し、研究者にも協力いただいて企画委員会を開催し、準備をすすめ、２０１４年３月２８日（金）～２９日（土）に、コープこうべ「協同学苑」にて、第１回を開催しました。第１回は、２８日（金）に「協同組合史前期」を、２９日（土）に「『協同組合人のロマンと思い』から学ぶ」をテーマに学び合い、協同学苑の史料館では、コープこうべの歴史や賀川豊彦に関連する展示物に触れ、気持ちも新たに開講することができました。

協同学苑資料館にて

情報クリップ

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税抜)
▸組合員と職員に親しみと共感の輪が広がるラブコープ・キャンペーン COOP「生協運動」改題 **NAVI** 2014.4 745 日本生活協同組合連合会	**▸特集** **組合員と職員に親しみと共感の輪が広がるラブコープ・キャンペーン** ＜僕らは商品探偵団＞こんがりもっちり　海鮮チヂミ ＜〈声〉に応えた商品改善レポート♪＞　ミックスキャロット ＜[新]全国のラブコープ・キャンペーンをお知らせ♪ラブコが行く！＞CM作りました ＜[新]進化する生協の店づくり＞2014年度・店舗連載スタートにあたって ＜[新]こんにちは！生協男子ですっ！＞コープさが　藤光重憲さん ＜宅配・現場レポート＞　いわて生協　コープ東北サンネット事業本部　仲間づくり ＜CO・OPニュースフラッシュ＞生協コープかごしま　コープ東北サンネット事業連合 ＜つながろうCO・OPアクション情報＞　福島県・相馬双葉漁協のいま ＜[新]防災、わが街スタイル＞　CO・OP災害ボランティアネットワーク ＜明日のくらしささえあう　COOP共済＞　おおさかパルコープ　都島支所 ＜生協人の基礎知識＞　第1回　生協の全国的な概要 ＜この人に聴きたい＞　特定非営利活動法人　manavee　代表理事　花房孟胤さん	2014 年 4 月 A4 版 35 頁 定価 350～円
▸　自転車に乗って 医療生協の情報誌 **COMCOM** 2014.4 560 日本医療福祉生活協同組合連合会	**▸特集　自転車に乗って** [インタビュー]　自転車で健康づくり　まちづくり 堺自転車のまちづくり・市民の会　代表　中村博司 [リポート]　自転車が開く社会への扉 [バンビのつぶやき⑯] ビバ！田舎　本のおもちゃ屋　店主　中根桂子 [住まう⑯]　住まい探しにサポートを（前編）NPO法人かけはし（岡山県倉敷市） [介護十人十色⑯]　できることから「その人らしく」 2013年第6次デンマーク研修視察団報告集より きらり健康生協・すこやか福祉会(福島県) [TOMOそだち⑮] 女性医師が子育てしながら経験を積める復帰支援プログラム「カトレア」 [協同のある風景]　215　被曝リスク低減にむけた福島4生協の取り組み ～知ることで工夫が生まれる～（後編）きらり健康生協・福島医療生協	2014 年 4 月 A4版 40 頁 定価 400 円
▸「ブラック生協」にならないために ～人事システムと職員教育を考える **くらしと協同** 2014．春号 8 くらしと協同の研究所	コープみやざきで働く　下門直人 巻頭言　非営利・協同セクターとしての人材育成を考える　法橋聡 争論　生協の労働モデルをいかにつくるか？ 流通業と生協の現場を見て～協同組合における働き方を考える　木本喜美子 エフコープ生協の「均等待遇」～普遍的な労働モデルを目指して　西田浩基 **特集** **ブラック生協にならないために　～人事システムと職員教育を考える** 01「学びと気づきの場」づくり 「共同購入マイスターコース」「協同の未来塾」のねらい　兼子厚之 02「生協人よりも生協人らしく」をめざして ～生協個配を受託する株式会社アシスト　青木美紗 03　JAの中央段階における教育活動60年 ～協同組合短大から現在までの変遷を中心に～　田中照良・中川峰郎 04　近年における賃金形態の変化と、ジョブ・ローテーション型人材育成　山縣宏寿 ～生活協同組合「熊本いのちと土を考える会」の活動から～　片上敏喜 05　誌上座談会　非営利・協同組織の労組はこう考える　杉本貴志 協同に生きる 追跡取材　いきいきと働き続ける女性職員たち～4年間のあゆみと今　山野薫 研究ノート　生協における倫理的消費 ～英・日・韓のフェアトレード運動からの考察～　堀江智子	2014 年 4 月 B5 版 69 頁

▸電力自由化と
再生可能エネルギー

生活協同組合研究

2014．4
459

（財）生協総合研究所

■　巻頭言　分母と分子　生源寺眞一

▸特集　電力自由化と再生可能エネルギー

地域からのエネルギー政策　小磯修二
電力自由化で増す生協の役割　松尾博文
生協の電力事業　二村睦子
ドイツのエネルギー大転換への挑戦
　－再生可能エネルギー、脱原発、電力システム改革について－　木村啓二
再生可能エネルギーによる地域経済の活性化に向けて　柴田友厚
フランスの子育て支援事情　木下裕美子
コラム　青森のドンキホーテ
　－風車に挑んだ自動車整備会社－　白水忠隆

■　時々再録
二つの原発会見　白水忠隆

■　海外情報
ソウル・グローバル社会的経済フォーラム(GSEF)
及びiCOOP生協とクラスターの参加報告　鈴木岳

■　新刊紹介
全国大学生活協同組合連合会など編著　『大学生が狙われる50の危険』
白水忠隆

2014年
4月
60頁
B5版

▸農業所得の
向上について考える

月刊ＪＡ

2014.4
710

全国農業協同組合中央会

特集　農業所得の向上について考える　～販売戦略①

【論説】 流通・消費の“いま”と展望　三石誠司
【解説】 JAグループ営農・経済革新プラン　JA全中新農政・JA対策プロジェクトチーム
【報告】 販売力強化に向けた対応　JA全農
【注目】 例題から勉強するﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ用語の基礎の基礎　本田茂
・きずな春秋　－協同のこころ―　童門冬二
・地方紙ニュース　第37回
「清流の国ぎふづくり」に農政活用　岐阜新聞社編集局報道部長兼編集員　採成人
・直言！JAへのメッセージ　料理家の「仕事」の原点　井澤由美子
・組合長ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ
　伝統のササニシキ復活に取り組む　宮城県JA古川　代表理事組合長　竹中莞爾
・協同組合の広場　日本生協連、JF全漁連、全森連、全国労働金庫協会
・地域・支店から『戦略』を考える　「新たな農業・農村政策と地域営農ビジョン運動」
　一般社団法人 JC 総研　基礎研究部　主任研究員　小林元
・展望　JA の進むべき道　平成26年度のはじめに当たって JA 全中会長　萬歳章
・海外だより［DC通信］35　TPP 交渉の背景　古林秀峰
・見せましょう、協同の底力！
　みんなの力で、都市と農村をつなげる（前編）
　NPO 法人えがおつなげて（山梨県北杜市）ほか　青山浩子
・次代へつなぐ協同実践塾
・持続可能な農業の実現
　「地域営農ビジョン大賞」の実践に学ぼう　JA全中営農部・農地総合対策部
・豊かで暮らしやすい地域社会の実現　いま JA 交流事業が注目されている
　JA全中くらしの活動推進部
・10年後JAが存続するために
　JA 内部管理態勢の強化
　－3者要請検査をふまえた内部管理態勢強化の取り組み
　JA全中経営対策本部
トピック①
「JA グループにおける農作業安全および労災加入促進にかかる取り組み方針」
および平成26年度「春の農作業安全月間」について
JA 全中営農・農地総合対策部
トピック②
2015年ミラノ国際博覧会
JA グループも協賛　日本の農業と食の魅力を発信　JA 全中広報部

2014 年
4 月
A4版
64 頁
年間購読料
4.800
円（送料込）

▸教育
人間への希望を
取り戻す力として

社会運動

2014．4
409

市民セクター政策機構

特集　教育　－　人間への希望を取り戻す力として

第２次安倍政権がやろうとしている教育改革をどうみるか
広田照幸（日本大学）
子どもの学ぶ権利と日本の公教育のこれから
新しい普通教育の創造をめざして　喜多明人（早稲田大学）
子どもが主人公の教育とは－日の丸・君が代問題から考える
渡辺厚子（元教員）
シチズンシップ教育とは　－オランダの教育に学ぶ
森川礼子(東京・生活者ネットワーク)
学びあう場の実践　－大人の学校とコミュニティスクール・まちデザイン
「都民による都政」への険しい道　－2014年東京都知事選を考える
塚田博康(「都市・情報研究室」主宰)
揺らぐ空間放射線量の基準　－年間1ミリは、時間0.23マイクロか
葉上太郎（地方自治ジャーナリスト）
社会的企業研究会　韓国の協同組合基本法と社会的企業
キム・ギデ（韓国協同組合研究所）
対話・今こそ！日韓市民政治交流　日韓の参加民主主義と市民社会の強化
ユン・ホジュン(韓国民主党国会議員)　西崎光子(都議会議員)
座談会　お墓を業者まかせにはしない
書評
古沢広佑編『共依存』1・2　丸山茂樹(参加型システム研究所)
藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著『戦う社会的企業』中川雄一郎(明治大学)

2014 年
4 月
B5 版
56 頁
頒価500 円

▸農協(系統)
攻撃が始まった(下)

文化連情報

2014．4
433

日本文化厚生農業協同組合連合会

農協組合長ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ(4)
「来ていただく農協」から「出かける農協」へ　岸本富次
診療報酬改定のインパクトをどうみるか　東公敏
農協(系統)攻撃が始まった　(下)　国益と民益は違う　坂本進一郎
伊賀の里モクモク手づくりファーム（1）
農業で地域づくりを全国に広げる　小磯明
岡田玲一郎の間歇言　（123）
医療の正常化といったら叱られるだろうが、そう思う　岡田玲一郎
イギリスの医療制度はどこに向かうのか（13）
終末期ケア戦略と緩和ケア　堀真奈美
平成26年度診療報酬改定と2025年に向けた将来予測　加賀谷晃
平成25年度厚生連院内感染予防対策研修会報告
第3回厚生連院内感染予防対策(基礎)研修会に参加して
納得できないことはﾁｰﾑで討議して変えていきたい　小林修一
意義を理解した適当な方法を用いることが妥当　今澤太学
日常の基本的な事が感染管理に大切であることを伝えていきたい
市川恵美子
職能発揮する前段階に知っておくべき知識を学習　内山耕作
ドイツ・ケーニッヒスブルンのAWOシニアホーム　小磯明
野の風●　生涯スポーツとしてのゴルフ　高久八重子
デンマーク＆世界の地域居住(59)
デンマーク最新動向:リハビリの底力　松岡洋子
旅する私の素敵な出会い（7）視線に射抜かれて　山本京子
自著を語る　『未来を拓く協同の社会システム』　／　朝倉美江

2014 年
4 月
B5 版
72 頁
文化連情報
編集部
03-337
0-2529
＊注

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✤)などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。　詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

第40回東海自治体学校　“憲法と住民の声がいきる自治体を”

～平和、地方自治、社会保障、人間らしく暮らせる地域を考えよう～

●2014年5月18日（日）　10:00～16:30（9:30受付開始）

●名古屋大学経済学部（名古屋市千種区不老町/地下鉄名城線「名古屋大学」下車①出口徒歩1分）

10:00　開校挨拶　市橋克哉（東海自治体問題研究所理事長/名古屋大学教授）
10:15　基調講演「社会保障の歩みと展望」（仮称）
　　講師：　津市立三重短期大学　長友薫輝　教授
13:00　分科会受付　　13:15～　分科会　　16:30　終了

※資料代：1500円　（障がい者、学生、年金者1000円）

【主催】 第40回東海自治体学校実行委員会
【問合せ・申込先】 東海自治体問題研究所
Tel.＆Fax　052-916-2540　E-mail tjmken@f6.dion.ne.jp

講座「国民健康保険の基礎講座」
分科会　①地域防災対策を考える　②地域医療連携について考える　③「交通政策基本法」と「交通圏」保障　④安心して利用できる介護保障制度に　⑤人間性が開花する地域づくり　⑥東海地域経済の現状と再生への課題　⑦安心して子育てができる環境づくり　⑧給食を考える　⑨公契約条例の制定に向けて　⑩自然エネルギーを考えましょう　⑪生活保護

書籍案内

キレイゴトぬきの農業論
著者：**久松達央**　発行：2013/09/14　定価：本体 700 円＋税
出版社：新潮社　判型：新潮新書　ページ数：206 ページ

内容
　全部、カン違いです。→【有機＝美味で安全】【農家＝清貧な弱者】【農業＝体力が必要】有機農家が畑でロジカルに考え抜いてわかった真実！
　誤解（1）「有機農法なら安全で美味しい」誤解（2）「農家は清貧な弱者である」誤解（3）「農業にはガッツが必要だ」――日本の農業に関する議論は、誤解に基づいた神話に満ちている。脱サラで就農した著者は、年間五十品目の有機野菜を栽培。セオリーを超えた独自のゲリラ戦略で全国にファンを獲得している。キレイゴトもタブーも一切無し。新参者が畑で徹底的に考え抜いたからこそ書けた、目からウロコの知的農業論。

新潮社ホームページより

2014年4月25日発行（毎月25日発行）
定価200円
（税・送料込み。年会費には購読料が含まれています）
発行　特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事　川　崎　直　巳
〒464-0824　名古屋市千種区稲舟通1－39
TEL　052-781-8280　FAX　052-781-8315
E-mail　AEL03416@nifty.com
HP　http://www.tiiki-kyodo.net/

115号　2ページ中段本文5行目　過剰適用は「過剰適応」、11行目　解放する空間は「開放する空間」の間違いでした。　お詫びして訂正致します。

研究センター　５月の活動予定
7日（水）事務局会議
12日（月）総会案内・議案発送
14日（水）常任理事会
16日（金）環境パネル世話人会
20日（火）くらしを語りあう会・地域福祉を支える市民協同パネル世話人会・F職員の仕事を考える世話人会
21日（水）食と農パネル世話人会・NEWS編集委員会
23日（金）協同の未来塾　第3回
26日（月）岐阜地域懇談会「第6回岐阜のつどい
　　白川佐見とうふ「豆の力」見学交流会
30日（金）地域と協同の研究センター総会